

小規模事業者経済動向調査報告書（要約版）から

◎2020年4月～6月のD I及び前期（2020年1月～3月）との比較

製造業：前期は、前々期の景気後退感から改善の兆しがみられたものの、今期は、「売上（加工）単価」以外の項目がマイナスのD I値となったうえ、景況判断も「大幅悪化」・「悪化」を示しており、一転して景気の悪化が見て取れる。

経営上の問題点としては、需要の停滞・原材料価格の上昇や熟練技術者の確保難など前期と同様であるが、新型コロナウイルス感染症感染拡大による社会変化への対応など、経験したことがない今後の経営に不安を抱える事業者がある。

建設業：前々期まで続いていた好況感から、前期は「受注（新規契約工事）額」のD I値が大きくマイナスになるなど先行きに不安がみられた。更に、今期は「完成工事（請負工事）額」がマイナスのD I値となり、景況判断も「大幅悪化」を示すなど、景気は後退局面に入ったと判断する事業者が出てきた。

経営上の問題点としては、官公需要及び民間需要の停滞や熟練技術者の確保難をあげる事業者が引き続き多い。また、資材の入手難が次第に解消され通常営業に回復したとする事業者がある一方で、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響や7月以降の公共工事の減少が判明し、今後の経営に不安を抱く事業者がある。

小売業：前期から引き続き、全ての項目がマイナスのD I値であり、厳しい景況感が続いている。需要の停滞・消費者ニーズの変化への対応など、これまでの経営上の問題点に加え、新型コロナウイルス感染症感染防止のため、恒例の春の売り出しを中止にしたり、住民の外出自粛で飲食店が休業するなどして、売上が激減するなど大きな影響が出ている。また、収束の見通しが立たず今後の経営に不安を抱く事業者がある。

サービス業：前期と同様に全ての項目がマイナスのD I値である。更に、全てのD Iの数値が悪化しており、景況判断も「大幅悪化」・「悪化」を示している。これまで厳しい中にも底堅い景況感が続いていたが、ここへ来て大幅な景気の後退感が見て取れる。

新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、売上の減少や収束の見通しが立たず不安が募っている事業者がある一方で、国・県及び町の支援策を有効に活用したり、商工会の効果的な支援により前向きに経営を続けようとする事業者も出てきた。